

このお便りは私が担当している太極拳教室のみなさんに毎月お届けいたします。

今月のトピックス 東京都支部大会のお知らせ

日本健康太極拳協会（楊名時健康太極拳）東京都支部の第3回大会が開催されます。

詳細は各教室でそれぞれご案内いたしますが、ふるってご参加ください。

日時； 5月30日（日） 10時～13時 （9時受付開始）

場所； ^{ぶんぶ}BumB東京スポーツ文化館 （前・夢の島総合体育館）
新木場駅下車徒歩 10~15分

参加費； 無料、ただし非会員は200円

服装； 空手着着用、無い人は上着：白、ズボン：黒

参加予定； 約1000人

けんこうもうごろく 健康妄語録

健保があるので不健康になる？！

日本の健康保険は世界でもまれにみる立派な“国民皆保険”制度として有名ですが、同時に財政破綻の危機にもさらされています。すでに膨大な赤字を抱えているうえに、さらに今後老人医療費の加速度的な増大が避けられない見通しだからです。日本の薬価や医療設備費が欧米に比べてけた違いに高いとかいう問題も指摘されていますが、何よりも収支を健全に保とうとするメカニズムが働きにくい制度ですから当然な成り行きとも言えます。つまり――

1) 「お医者さん」や「薬メーカー」としてこの制度によって収入や売上を増やしたいというのはごくごく自然な正当な指向です。（検査や投薬をたくさんしないと点数が上がらない診療報酬の仕組みにも問題はありますが）自ら抑制できるはずはありませんし、それを道義的に批判するのは筋違いでしょう。「商業主義」（つまり“儲けることは良いことだ”）という尺度は、日本のどんな企業でもまた自営業でも個人でも共有している普遍的な物差しなのですから。

2) 一方の「患者」はどうでしょうか、自分の医療費がどんなに高くてついているのか自覚がありません。それどころか、自分が積み立てた保険料を取り戻すのだという意識（実は7割は税金ですが）、或いはどうせタダ同然だからどんどん医者にかからなきゃ損だ、薬はとりあえずもらっておこう、棄てても惜しくない、というのが普通ではないですか。また時折摘発される悪徳医師による不正請求も患者側からはチェックしようがない仕組みだから出来るのですね。

3) さらに言えば、この制度を管理運営する「厚生労働省」や「保険組合」はどうでしょうか。中立であるべき中医協幹部が日本歯科医師会から賄路を受けたとされる最近の事件を見ても分かるように、被保険者、納税者の立場よりも、医薬業界の利益をより重視する（或いはその圧力に抗しきれない）傾向が覗い見られます。

こうして考えると当事者すべてに“原価意識”が乏しく、財政悪化の共犯者とも言えます。ところで、熟年者の受診頻度は若い人の4倍以上だそうですが、確かにどこの病院でもお年寄りで溢れていますね。病院の待合室で“しばらく顔見なかったけど病気でしてたの？”なんてブラックジョークみたいな会話があるそうです。こうして熟年者を中心に病院通いは増える一方ですが、どう

してでしょう？幾つかの要因が指摘されています。①生活習慣病の増大②薬の飲みすぎや副作用の影響③老化現象（による体の機能低下）を病気と見なす“治療”などなどです。つまり健保があるおかげで、すっかり他力本願になってしまって、人間本来の自然治癒力やそれを向上させようとする意欲が、弱くなった結果とは言えないでしょうか。もちろん社会的弱者救済を目的とする健保の必要性は否定するものではありませんが、制度の構造的な欠陥を早急に改革しないと、ますます「不健康」に、そして最終的には制度の崩壊によって大いなる「不幸」にも見舞われることになるというのが、私の「妄論」です。

上記の①②③などについてはいずれまたそれぞれ妄論を提起いたします。

用語解説 むかふきゆう 無過不及

これは太極拳の聖典とされている『太極拳経』に出ている言葉です。王宗岳（中国山西省・清代の人）によって書かれたこの本は太極拳の基本理念と基本原則をわずか500字ほどに凝縮して表したもので、『太極拳』という名前もここで確定したとも言われています。中国の易経の理念に基づくものできわめて難解な書ではありますが、『無過不及』は「過ぎたるも及ばざるも無し」と読みます。

（朱子が『中庸』の解説で述べた有名な言葉の引用かと思います。）深い意味合いはいろいろありますが、最も基本的には、“動作がバランスよく、過不足が無いということ”と理解したらよいと思います。たとえば、初心者の方は最初どうしても棒立ちになり勝ちですが、これを指摘すると、今度は膝が前に出すぎたり、上体を前に傾けたりしてしまいます。つまり前者は「不及」、後者は「過」ということですね。真実はその中間に有るのですが、そこに形がおさまるまでがけっこう大変なのです。考えてみれば世の中のすべてに通じる、まさに「中庸」を明示した格言ですね。

旅をうたい拳を詠む

ぼうたん 牡丹の花あでやかに揺れるたんとうこうに站档功に動かざるひと

りゅうじよ 柳絮飛とうかび桐花も淡き西安かすみに舞ひし記憶も春の霞に

楊貴妃ゆかりの牡丹で有名な古都「洛陽」の王城公園の一隅には樹を抱く姿勢で何十分も動かない人たちがおりました。気功の一種で樹木の精気（今風に言うところ“フィトンチッド”ですね）を取り込んでいるのだそうです。これをもっと腰を落とす形でやると足腰を強烈に鍛えることができます。よく少林寺拳法などの修行風景で見るアレです。「西安」もとても好きな街です。小雁塔の下で現地の人に倣って太極拳を舞った記憶ももうおぼろ朧となってきました。また行きたいと思っています。

遊印遊語

平成3年、奈良の薬師寺に「玄奘三蔵院」が完成して盛大な落慶式が催されました。その様子をテレビで見ると感銘を受けて、『仏光は万里を照らし久遠に輝く』と造語して印に彫ったものです。

平成13年の秋に同じ薬師寺で平山郁夫画伯の「大唐西域壁画」を拝してさらにこの感を強めました。

輝 照 仏
久 万
遠 里 光

